藤原忍調査レポート　2025. 9

No.12　報告責任者：藤原　忍
ブログURL: https://okuwa.pathpilot.life/
Eメール： sfujihara3@yahoo.co.jp

第12回目は**大桑村中央アルプス観光資源**について展望します。

9月11日の定例村議会の一般質問を通して、大桑村にとって中央アルプスが村の資源として、村の将来にどのような意味を持つのか、行政の考えを問いました。今回はその内容を報告します。

移住された方々が大桑村で成功してほしい

村の未来は人の数で決まる

＊1：国立社会保障・人口問題研究所R5推計値

人が居れば、空き家も商店も食事処もある程度回転します。しかし2040年の村人口は2,223人＊1 と推定されています。減少が続く村の住民だけでは大桑村の未来が描けません。

都会から村に移住する人は特別な磁石

私の知る移住者の方々は特別なスキル、プランそして夢をもって大桑村に移住し、この地で民泊やカフェなどのサービス業の起業を目指しています。そして村内外から沢山の人々を呼び寄せる**特別な磁石**となります。つまり、これら移住者の方々の起業の成功が村の未来を大きく左右します。

村自体が人を惹きつければ起業の成功を支援できる

更に、大桑村自体が沢山の**人を惹きつける特別な魅力**を持てば、起業する人々の強力な支援となります。来村者の数パーセントが顧客になるとしても村を訪れる人の全体数が増えれば、ビジネスの幅が広がり、より多くの起業チャンスが生まれ、大桑村を移住の地として選ぶ人が増える可能性があります。

滞在型の来訪者を惹きつける村の魅力って？

村の民泊やカフェなどを利用する滞在型の来訪者（阿寺渓谷の来訪者は村内飲食・店舗等に立ち寄らない通過型が多いと聞きます）を増やすことが重要です。他の地域と同じテーマ(たとえば宿場町)をアピールしても、大桑村よりも魅力的な所(たとえば妻籠)に来訪者を取られてしまいます。では、他の地域の一歩先を行く、大桑村のピカイチな魅力ってなんでしょう？

大桑村の未来にとっての中央アルプス

中央アルプスの観光資源としての可能性

2020年3月に中央アルプス国定公園が制定されました。大桑村はこの国定公園内の特別地域面積が最も広い自治体で、このエリアに通じるルートを3つも持っています。この素晴らしい中央アルプス国定公園を広範囲に楽しむ玄関口、大桑村のピカイチ魅力です。

この可能性について行政の見解を問いました。

越百山から南駒ケ岳に続く中央アルプス稜線

行政回答の要旨は以下です。

「大桑村は中央アルプス稜線を広くカバーする村。ループ状になった3つの登山道をトレラン（登山道ランニング）で楽しむ人も少なくないと認識。国定公園は村にとって貴重で大きな可能性を持った観光資源と認識している。」

出典：中央アルプス国定公園ホームページ
https://chuoalps-forum.com/

中央アルプス（特に登山道）の現状に対する行政の認識

前回の調査レポートで報告したように、大桑村が持つ中央アルプスへの登山道は荒廃が進み、壊れた標識は放置されています。伊奈川ダム下の国有林道ゲートも平成30年の災害以来閉じたままで、その先にある村が整備した登山口駐車場への車の乗り入れが出来ず、駐車場にあるトイレも閉鎖されています。この現状に対する行政の見解を問いました。

平成30年の災害以降閉じたままの国有林道ゲート

「貴重な財産である登山道を村として管理していかなければならないと認識。ただ、人を含めてどのように運営・管理していくか、様々な方面からアドバイス等をいただいて対応策を検討していきたい。」

壊れたままの登山標識

村の未来の為に中央アルプス資源を活かすには？

近年、行政は中央アルプス登山道環境整備を予算配分対象として見ていませんでした。村内登山熱の沈静化に加え、社会保障やその他公共事業への投資が優先されたのだと思います。しかし、このままでは中央アルプス国定公園を大桑村の未来のために活かす事ができません。諸先輩方が造り守ってきた登山道、村の貴重な財産が消滅してしまったら、もう手が出せなくなります。行動を起こすなら今です。

国道19号線の標識

行動を起こす為には**将来像(ビジョン)**が必要です。例えば2040年の村の様子をどうしたいのか**具体的なイメージを多くの方々で共有する**ことが重要です。2040年までの15年間、そのイメージ実現を目標に、考え行動します。

この方針について行政の見解を問いました。

「阿寺渓谷を訪れる人は6万人程いるが、そのほとんどが一時的に訪れる人々。村の魅力を発信し、村のファンをつくり、**リピーターを育てることが重要**と認識。村の環境保全ボランティアや各種イベントの企画、村施設利用と連携したふるさと納税など、村のファン作りの仕組みを検討していきたい。また、村での起業を支援する制度の立ち上げも視野に入れている。」

行政の新たな施策と、それをベースにした将来像に大きな期待が集まります。

中央アルプス国定公園の玄関口、自然に囲まれた大桑村の魅力発信と村で起業された方々のサービスとの連携が、多くの人々を大桑村に惹きつける。そして、新たな起業が村で始まる。そんな素敵な循環ができたら大桑村の未来も変わってくると思います。

特別な磁石のご紹介 – 宮上ひできさん@長野

ひできさんはパティシエ、2022年4月に大桑村長野でお菓子教室スタート。現在は村の方々などからの注文をベースにケーキ・お菓子の製造販売や出張教室を行っています。

桑の葉クッキー

蘇南高校卒業後洋菓子作りに目覚め、ホテルのケーキパティシエやケーキ販売店のチーフなどを歴任。忙しい日々の中、時間に余裕を持った生活がしたいと故郷でのお菓子教室をスタート。大桑村観光をテーマにした銀座NAGANOでの経験から大桑特産のお菓子の検討開始。村の地酒をベースにした生チョコや酒粕を使ったチーズケーキなどを試作する中で、有志とともに桑の葉を使ったお菓子の研究を。偶然にも同じテーマで活動をしていた中学校の生徒さんとコラボが始まり、大桑産**桑の葉クッキー**が誕生。生徒さん・ご家族・先生みんなでのワンチームの活躍で、今では村を代表するお菓子に。
ひできさんのケーキとお菓子、村内外においしい笑顔を広げています。